「国際石油情勢の展望」

< 報告要旨 >

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・電力ユニット 石油グループ マネージャー 小林 良和

2015 年までの国際原油価格の展望

1. 2015 年にかけての国際原油価格は、2014 年の下半期（7～12 月）で、Brent 原油で \$110/bbl、Dubai 原油で \$108/bbl、WTI で \$105/bbl。2015 年の通年は、Brent 原油で \$105/bbl、Dubai 原油で \$103/bbl、WTI 原油で \$100/bbl と予想する。
2. 上記の価格水準は、様々な要因によって変動しうる。今後の価格の上振れ要因は、イラク情勢の更なる悪化とその周辺国への影響や、そうした地政学的リスクの高まりによる先物市場への資金流入などである。一方、今後の下振れ要因として挙げられるのが、リビア原油の生産量・輸出量の回復、中国を始めとする新興国経済のさらなる減速、北米における想定を上回る増産の継続などである。

2015 年までの国際石油情勢

3. 足元の国際原油価格の動向

国際原油価格指標である Brent、Dubai 相場は過去 2 年間、歴史的には非常に高い水準でありながらもその安定性を増してきた。2014 年に入ってから、Brent、Dubai 共に \$100/bbl 台後半の水準を非常に安定的に維持している。もう一つの価格指標である WTI 相場については、米国経済の回復が本格化してきたこと、価格参照地点である米国オクラホマ州クッシングからのパイプライン網が整備されたことから、年初から上昇基調にあり、以前は \$20/bbl 以上にまで拡大した Brent との価格差も \$10/bbl 以下にまで縮小している。

4. 需給ファンダメンタルズ

2015 年にかけての世界経済は、3%台の安定的な成長を続けると予想されており、世界の石油需要も今後堅調に増加していくことが見込まれる。2014 年下半期の需要は上半期に比べて 200 万 B/D の増加が見込まれる一方、非 OPEC 供給は前期比で 80 万 B/D の増加にとどまるため、仮に OPEC が現状の生産量を維持すると仮定すると、年後半は需給バランスがタイト化する。2015 年通年では、需要は前年比で 140 万 B/D、非 OPEC 供給は 160 万 B/D の増加が見込まれるため、需給は再び緩和傾向に向かう。

5. OPEC 原油生産

2014 年 1～5 月の OPEC 原油生産量は、前年同期比で約 60 万 B/D の減産となっている。その最大の要因は、リビア国内における東西地域間での政治的対立で東部油田地域の生産・輸出が滞っているためであり、OPEC 全体では、サウジアラビアやイラクなどで増産がみられているものの、このリビアの減産分を賄う水準には至っていない。なお

2013年11月のジュネーブ合意を受けた形で、イランの原油輸出量が少しずつ増加してきているが、仮に今後イランに対する経済制裁が緩和されたとしても、制裁期間中の減産の影響により、短期間での制裁前の水準への増産は難しいと見られる。2014年の下半期にかけて、世界の石油需給がタイト化する中、足元で進みつつあるリビアの輸出再開に向けた動きや、サウジアラビアによる増産の有無とその度合いが注目される。

6. 地政学的リスク

地政学面では、スンニ派過激派組織 ISIS とイラク政府との軍事衝突が激化しているイラク情勢が目下最大の不確実要因である。南部の油田地域はイラク政府によって嚴重に警備されており、生産や輸出に対する影響は今のところは現れていない。しかし、イラク国内の治安の悪化や国家としての統治体制が大きく揺らぐ中、今回の国内情勢の悪化によって、今後のイラクにおける生産能力の増強は遅延を強いられる可能性が高い。この遅延は、中長期的な世界の石油需給バランスへの影響はもちろんのこと、将来の需給逼迫観測を高めることで短期的な原油価格の水準にも影響を及ぼす懸念もある。現下のイラク情勢の悪化は、隣国のシリア情勢とも密接に連動していること、独立志向を強める北部のクルド地域政府の活動も活発化していること、そして宗派対立という要素を強く持ったものであることから、国家の枠組みを超えた非常に複雑な様相を呈している。仮にこのままイラクの北西部からシリア東部にかけての地域情勢が著しく流動化するような事態に陥り、周辺国へもその影響が波及するようなことがあれば、中東域内での石油生産や輸出に大きな支障が生じる可能性も否定できない。その場合には、国際原油価格も史上最高値を上回る水準にまで高騰する可能性がある。

7. 米国からの石油輸出

シェール革命が進展する米国からの石油輸出は、あらゆる油種で増加している。石油製品やLPガスの輸出増加だけにとどまらず、米国商務省の許可の下での原油輸出も急増しており、2014年4月には26万B/Dを超え、15年ぶりの高水準に到達した。2014年6月には、簡易的な処理を行ったコンデンセートにも米国商務省から実質的な輸出許可が与えられ、今後アジア市場にも米国からのコンデンセートが流入してくることが予想される。量的にはまだ限られた規模ではあるが、アジアにおけるナフサなど軽質石油製品の調達価格の低下に資すること、また将来的には米国からの原油輸出の増加にもつながる可能性もあり、今後の輸出動向が注目される。

以上